

あかど  
ドクター赤土の

KITEBOARDは横ノリ系スポーツの王様!?



赤土 正剛(あかどせいご)

1959年2月9日生まれみずがめ座のO型  
身長186cm 体重95kg  
白峰温泉スノーボードスクール校長、日本スノーボード協会本部役員、日本赤十字救急法指導員、SLING SHOTの輸入代理(有)レザール代表。カイト歴2年。元ウインドサーフィンワールドカップ選手。(現在もしぶとく国内プロサーキットに出場)

# SIDEWAY SPORTS

## 横ノリ系スポーツの相関関係

7年程前、アメリカの会社の名刺にSIDE WAY SPORTSと刷り込みいろんな展示会を回ったところ、まず最初に皆に聞かれたのは“どういふことか”ということでした。そこで私が説明したのは、横のりをする奴は考え方も横のりである。文化も違うと一席ぶったのですがその翌年アメリカに行ったところみんなサイドウェイスポーツと言う言葉を使っていてまたびっくり。これは日本人の私が作った造語です。

図1 1/2の法則

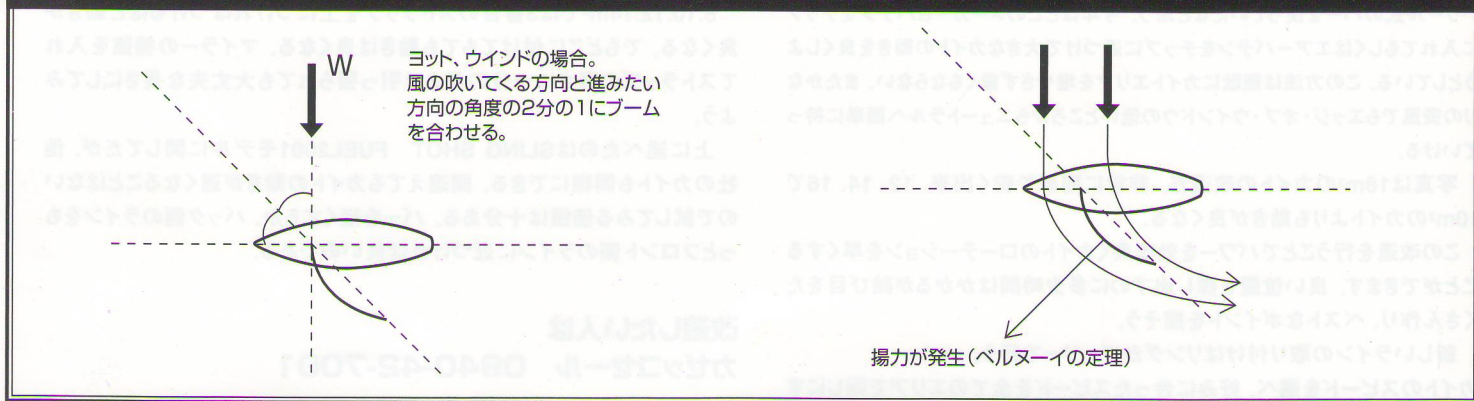
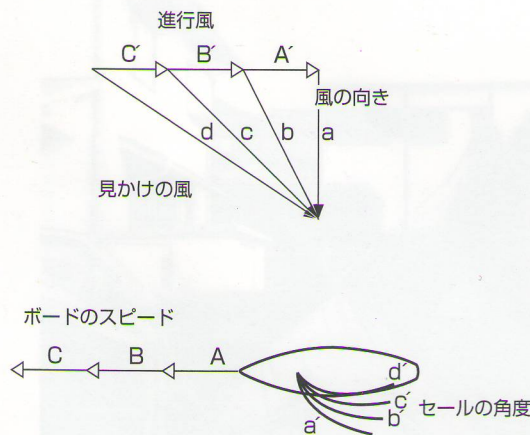


図2 見かけの風



aの風の時、セールの角度はa'。これでA進むとすると、A'の風を受ける。そうするとAのスピードで走っているときのボードが相対的に受ける風向きはbとなる。同様にbの風を受けたときにB走るとB'の風を受け、ベクトルの和でCとなる。そのときのセールの角度は1/2の法則により、a'→b'→c'と移っていくわけである。つまりウインドサーフィンの場合、走るスピードによってセールの角度をどんどん変えていかなければならない。

図3 カイトの場合

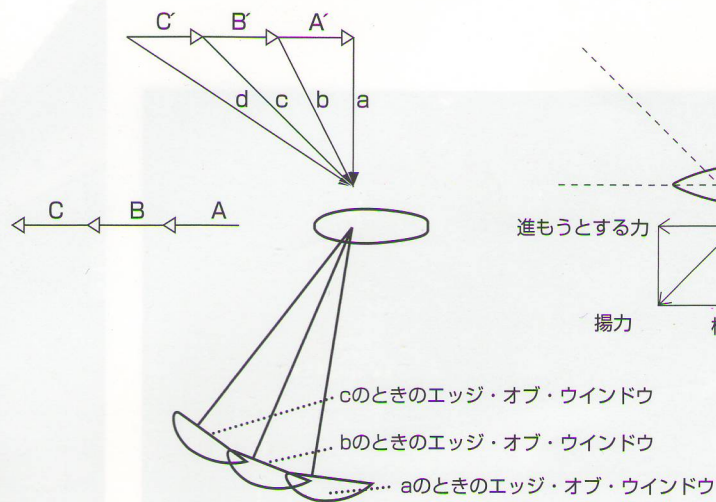
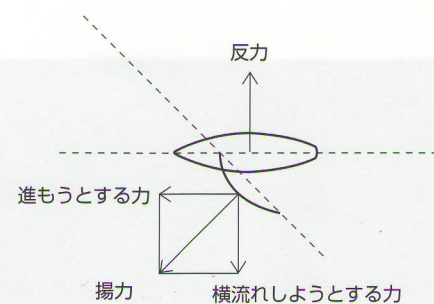


図4 揚力のベクトル分解

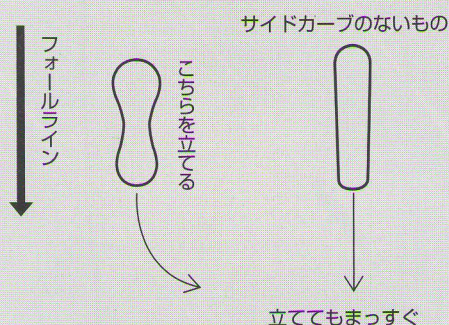


ところで今まで私がやってきた横のり系のスポーツというと、ウインドサーフィン、スノーボード、サーフィン、スケートボード、ウェークボードそしてカイトサーフィンですが、どれも非常に動きが似ています。只違う点といえばウインドとカイトは風という動力を使い、スノーボードとサーフィンは重力を使い、ウェークは船の動力を使うという事です。例えばウインドとカイトならヨットを比べるとヨットはマストが固定されているので、ウ

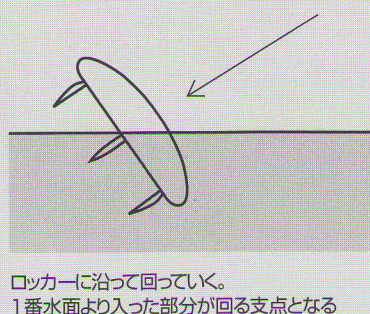
エザーヘルム、リーヘルムという風上に行こうとする、もしくは風下へ行こうとする動きが風の強さで現れてきますが、ウインドにはそれがありません。どうしてかというユニバーサルジョイントというものによって風圧重心と水中側面抵抗の中心を一致させることが出来る為起こらないのです。したがってそれを補う為ヨットには舵というものが必要になってくるわけです。一方ウインドとカイトを比べるとヨットやウインドにあったブー



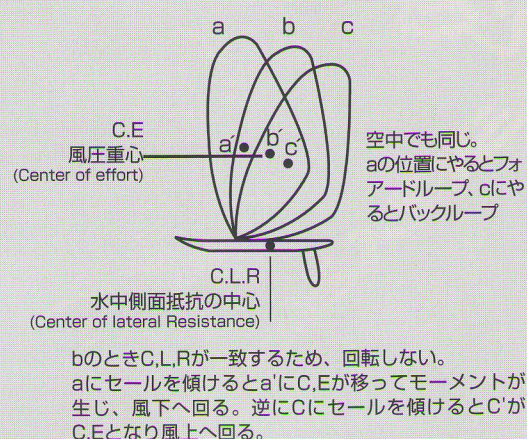
### スノーボードのターン



### サーフボードのターン



### ウインドサーフィンのターン



ムという風に対してセールの角度を合わせるものが無いわけです。通常、ヨットで一番最初に叩き込まれるのが自分の進行方向と風の吹いてくる方向の2分の1の反対側にブームを出せという事なのですが、さらにウィンドになると見かけの風の変化によって(スピード変化によって)ヨットより敏感にブームの角度を同じ方向に進んでも変えなくてはいけません。ところがカイトサーフィンに至ってはそれすらも必要なくカイトがエッジオブウィンドウに勝手に走ってくれて風に対するストラッツの角度を変えてくれるのです。まあはっきり言ってこれほど風で走るスポーツの中で帆の部分の操作が簡単なスポーツは無いわけです。しかもカイトの揚力を進む力から上方方向に持っていけばパラグライダーのように飛ぶわけです。他の横のり系のスポーツで飛ぶ場合は、2つの方法があります。いわゆるウィンドのキックジャンプつまりスノーボード、スケートボード、ウェークボードのオーリーと波、もしくはキッカーをカタパルトに持って飛ぶ方法です。前者は後ろ足の急激な下方方向への蹴りとそれで上方方向へ向いたボードを押さえ込む前足でテールを持ち上げる方法です。そして後者はまさしくジャンプ台を駆け上がり飛び出す方法です。これに対してカイトのジャンプのやり方は今の二つの方法プラス引かれる方向を急激に変えることで進行方向への慣性力と引き合いさらにカイトを振る事でその二乗倍に増えた揚力を使ってジャンプする事が出来るのが大きく違います。

ターンの方法に関してはスノーボード教程等ではやれ外力がどうのこの内力がどうのこの立ち上がりだの抱え込みだのスキーと同じ運命をたどりながらややこしいことを言っていますが、実は全てターンのきっかけの事を言っているだけで、サイドカーブがボードにあればフォールラインからはターンしていく訳です。またサーフ

インに関しては板のアウトラインが丸いほうが横に倒しこんだときの水の中に入る部分が増えそこを支点にターンを始めていくのです。ただこれも波の力を使うとはいえスノーボードと同じ重力式の動きとなるわけです。つまりよほどボードに慣性がついてない限りそのボードのトップが下を向くまではエッジを効かせてターン出来ないという事です。

一方ウィンド、ウェーク、カイトは常に引っ張られている力があるのでエッジをかませればいつでもターンはできます。ただしたまに下手なウィンドサーファーのジャイブを見ると惰性でエッジだけでターンしマストがノーズ方向に倒れていなくてせつかくのモーメントを使用していない人を良く見かけます。カイトのジャイブはレールのみでターンを始めそこからカイトをターンさせれば自然にカイトがエッジオブウィンドウへ行く方向にボードのノーズを向けるだけなので至って簡単です。しかもウィンドと違ってセールを返す必要がないのでジャイブ中に失速する事はありません。

まあ色々勝手に書くことばかり書いてきましたがスノーボードのバックサイドとカイトのヒールサイドはまったく同じですし、ウィンドのジャイブでのボードの動きと足の動きはカイトのジャイブトウスイッチと同じです。オーリーは皆共通。サーフィンの波の使い方はカイトをやってもウィンドをやっても基本は同じですから、今まであったスポーツの集大成にカイトがきてしまったという感じはしています。ただこのカイトサーフィンというスポーツはどのスポーツをやってきたときよりも随分アドレナリンが出ている気がします。本当にとんでもないスポーツが出来たものだと思つづく感じしつつそれにどんどのめりこんで行く自分かいます。そしてこの時代に自分がいて尚且つこのスポーツにこのめり込むだけの体力を現在も持っていて他の人よりも少し多くのサイドウェイスportsの心得があったことがすごく幸せに感じられます。